

次世代アントレプレナー育成事業 (EDGE-NEXT)

受講生の活躍紹介 (記載は令和4年6月時点)

# 早稲田大学

山形大学、滋賀医科大学、東京理科大学、多摩美術大学

## Skyward EDGE

### 本人略歴

- 早稲田大学 社会科学部 在籍中
- 2020年～ AGRINKの代表を務める

#### 【主な受賞歴】

東京起業推進センターの起業推進事業に採択(2021年)  
第3回WASEDA DEMO DAY みずほ銀行賞の受賞(2021年)  
第18回Campus Venture GP東京大会 優秀賞(2021年)

### 事業概要

農園のブランディングや六次産業化の際に必要なIT技術やデザイン等のスキルを求める農家と、自分の得意分野を社会で役立てたい学生とをマッチさせるスキルシェアプラットフォームアプリ「AGRINK」の開発



### 〈現在社会に与えているインパクト・成果〉 または 〈今後のビジョン〉

- 農家側は金銭的負担がなく、農園で育てている作物を「仕送り」のように学生に届けることで返礼し、一方の学生側は自分がスキルを提供した農家から直接旬の作物を受け取ることができる。この仕組みで、Z世代の若者のスキルを農業界にもたらし、農家の挑戦を後押しすることで、持続可能な日本農業界をつくる。
- 提携農家数、学生ユーザー数共に堅調な伸びを続けており、今後も生産者と消費者の気軽な接点「AGRINK」を通して、誰もが生産に携われる社会を実現する。

### 〈EDGE-NEXT受講プログラム・活動内容・取組成果・与えた影響等〉

- 本チームは、2020年度の埼玉県本庄市×Skyward EDGEコンソーシアム合同プログラムの参加をきっかけに結成した。チームメンバーは、当該プログラムで出会った早稲田大学、山形大学、東京理科大学の3大学から成る5名で、文理融合かつ複数拠点で活動しており、それぞれの強みを活かしながら取り組んでいる。

学生が遠隔地から農家をサポート  
農家と学生を繋ぐWebプラットフォーム



スキルを求める農家と  
得意を役立てたい学生が出逢う  
全く新しいサービスです。



第18回Campus Venture GP 東京大会  
優秀賞

# 株式会社 小嶋総本店（創業1597年）

## 事業開発室 五十嵐有佳さん

コンソ名称 Skyward EDGEコンソーシアム

所属大学 山形大学

ホームページ 米糴のあまさけ ブランドサイト: <https://www.kojimasohonten.com/>

### 本人略歴

- 2018~2019 山形大学・地域連携プロジェクトに参加  
(山形県飯豊町にて地域の酒蔵と共に花酵母仕込みの日本酒開発)
- 2020~ 小嶋総本店入社、ノンアルコール事業・ブランド立ち上げ、担当

### 事業概要

- 健康的でナチュラルな暮らしをサポートするノンアルコール・無添加の甘酒飲料（スムージー入り）の卸売り/オンラインストア販売



### 〈現在社会に与えているインパクト・成果〉 または 〈今後のビジョン〉

#### ●【ライフスタイルを提案する新しい発酵ドリンク】

甘酒とスムージーの腸・肌に対する効能を活かした「ナチュラルな栄養補助飲料」として、無添加・健康志向の30~40代を中心に、お子様をもつファミリー層、授乳・妊活中の女性の軽食や体質改善ツールとして飲用されている。今後は、定期購入コースでの拡売や、d2cブランドとしての展開を予定。

#### ●【受賞歴】

2021年5月の発売以来、やまがたうまいものファインフードコンテスト飲料部門最優秀賞、山形エクセレントデザイン2021 受賞など県産原料を活用した商品としての評価を受けている。



2021.05 発売 米糴のあまさけ

### 〈EDGE-NEXT受講プログラム・活動内容・取組成果・与えた影響等〉

- 2018~2019 山形大学edge-next 地域連携プロジェクトを中心に活動。山形県飯豊町の酒造と共に、飯豊町周辺エリアにのみ自生すると言われる『ひめさゆり』の花から酵母および、それらで仕込んだ日本酒の開発・販売を目指した（販売には至らなかったが酵母開発のプロセス検討などの学びを残した）。
- 企画～事業構想～開発・プロモーションまでを経験し、2年間で県内外に向けたプロジェクト紹介やイベント実行などにより地域の認知を広げた。
- それらの経験を活かし、現在小嶋総本店にて新規事業内でノンアルコールの企画・担当などを行っている。



2019.06 開発関係者  
(ひめさゆり自生地の前)



# 株式会社Medpreneur（2022年5月末日登記予定）

## 代表取締役CEO 高畑翔吾さん

コンソ名称 Skyward EDGEコンソーシアム

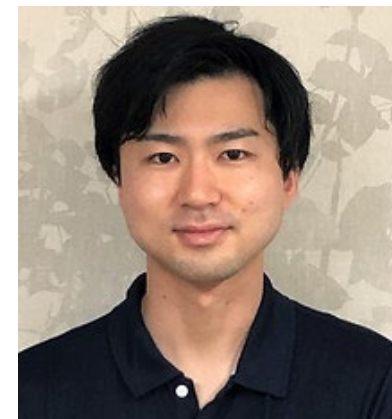
所属大学 滋賀医科大学

### 本人略歴

- 滋賀医科大学卒業。京都大学医学部附属病院研修医を経て、現在医療法人楽樹会 つむぎの森ホームクリニック副院長、滋賀医科大学脳外科客員助手を務める。
- 【主な受賞歴】 ミライピッチ学生部門最優秀賞(2018年)、第1回関西U-25ピッチコンテスト最優秀賞(2019年)、日本学生支援機構優秀学生顕彰優秀賞(2019年)、第4回滋賀テックプラングランプリ パナソニックアプライアンス社賞／東洋紡賞（2019年）

### 事業概要

1. 脳卒中予兆検知アプリの研究開発 @任意団体Qual+ia
2. 服薬管理デバイスの開発及び事業化 @株式会社Medpreneur(設立準備中)



### 〈現在社会に与えているインパクト・成果〉 または 〈今後のビジョン〉

- 事業1. については学部5年時より医学科生及び看護学生とチームを組み、複数のピッチコンテストに出場し優勝した。その後滋賀医科大学脳外科講座と連携し1件の特許出願及びJSTのSCOREプログラムに採択され事業化検証を行った。さらには1年半に渡るパナソニックアプライアンス株式会社との共同研究を経て、3件の共同特許出願を行なった。
- 事業2. については事業1. のメンバーに加え、筑波大学大学院修士1年のエンジニアを新たに迎え、5月末に株式会社を設立予定である。代表自ら訪問診療に従事しており、「一人暮らし高齢者の服薬コンプライアンスの悪さ」「既存製品は高価格帯で多機能を備えず、PMFしていない」という課題に気づき、ローテクだが家族がギフトとして渡しやすいデバイスの開発に取り組むこととなり、現在MVPの開発とPoCを実施している。

### 〈EDGE-NEXT受講プログラム・活動内容・取組成果・与えた影響等〉

- 本プログラムを通して、課題の着眼技法やニーズからビジネスアイデアの着想する手法を学ぶことができ、さらにはその着想したアイデアを元に仮説検証や顧客インタビューを実施するノウハウを得ることができた。
- 本プログラムを通して事業1. の活動メンバーさらには事業2. の共同創業者を得ることとなり、非常に優秀かつ意志を共にする人材を得ることができた。また他大学の起業プログラムにも参加したが、それと比較してプログラム終了後のメンタリングや知財化支援などが充実しており、研究費アプライや共同研究、事業化検証にあたり非常に心強かった。



2019年 第4回 滋賀テックプラングランプリ  
パナソニックアプライアンス社賞／東洋紡賞



2019年 第1回 関西U-25ピッチコンテスト  
最優秀賞

# 合同会社Socii（設立2021年）

## CEO 本間有貴さん（More-ing代表）

コンソ名称 Skyward EDGEコンソーシアム

所属大学 東京理科大学

ホームページ <https://www.more-ing.com/>

### 本人略歴

- 2021年3月 東京理科大学 工学部工業化学科 卒業
  - 2021年9月～ London School of Economics and Political Science (LSE)にてソーシャルビジネスを専攻中
- 【主な受賞歴】 Hult Prize World Regional Summit Best9 (2019年)、  
ヤンセンファーマ(株)「病のない未来」アイデアコンテスト優秀賞 (2019年)

### 事業概要

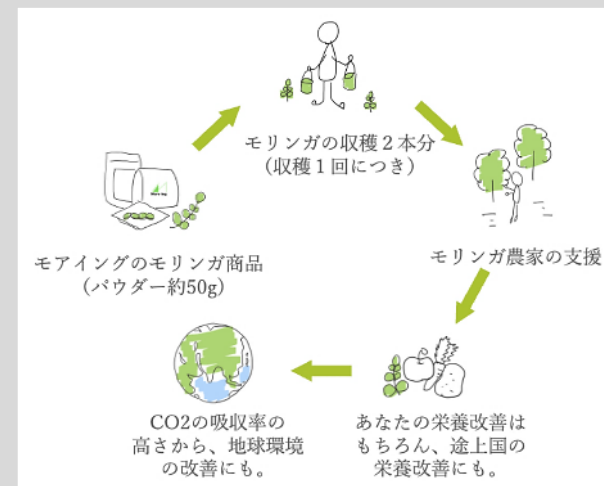
- 「奇跡の植物」モリンガで、持続可能に無理なく、人々の命と生活を救う：モリンガを活用した食品製造・販売を通じ、生産地（途上国）の栄養・経済状況の改善に取り組む。

### 〈現在社会に与えているインパクト・成果〉・〈今後のビジョン〉

- **インパクト**：世界で8億人以上の方が罹っていると言われる栄養失調をいかに持続的に、現地の文化や常識に逆らうことなく自然に救っていくか、変革に挑戦。これまで、カンボジアのトボンクモン地域で子供をもつお母さん等を中心としてモリンガの商用生産をスタート。
- **製品の購入者への影響**：「おなかにも、こころにも、フルネスを。」自身の健康や楽しみをもって買うモリンガ製品が、経済面、栄養面、環境面の社会貢献に繋がることで、心の幸福度も満たされる
- **ビジョン(個人)**：日本のソーシャルビジネス界に、世界ベースの分析、知識を持ち込める人材になること／企業が無理なくソーシャルビジネスに貢献できる社会に向けて、経済、社会の波を観察し、社会システムを変革できる人材になること。
- **ビジョン(事業)**：世界の栄養状況を持続的に改善する社会システムを作ること。

### 〈EDGE-NEXT受講プログラム・活動内容・取組成果・与えた影響等〉

- 2018年度Hult Prize東京理科大学大会で準優勝後、クラウドファンディングで資金調達し、ネパールでの現地調査を実施。20万組中約1%の難関を勝ち抜き、**Hult Prize海外地域予選に出場**。
- 2019年度Hult Prize Campus Directorとして大会を盛り上げ、2020年度はMore-ingの活動で**東京起業推進センター(TEIC)のGAPファンド**採択を受け、活動を促進。他大学や途上国でのメンバー獲得、各種ネットワーク構築、EDGE-NEXTシンポジウムへの登壇などにより、**学生発社会起業家のロールモデル**として学内外問わず多数の学生へ影響を与える。2021年に**合同会社Socii設立**。
- 2022年1月**テレビ朝日**「未来をここからプロジェクト」の一環として「大下容子ワイド！スクランブル」でMore-ingの活動が**約10分間にわたり紹介**される。



More-ingのコンセプト



### 本人略歴

- 多摩美術大学生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻4年在籍中
- 【主な受賞歴】第4回WASEDA Demo-Day ソレイジア・ファーム賞、わせたま×SUMS-EDGE賞（わせたまチームD）（2022年）

### 事業概要

- 病院内の情報共有アプリ「ミカエルウェア」の開発



### 〈現在社会に与えているインパクト・成果〉 または 〈今後のビジョン〉

- 早稲田大学2名、東京理科大学1名と4名でチームを組み、滋賀医科大学の医療従事者へのヒアリングを行った結果から、病院内で、今、どこで、誰が、何をしているのかがわかる4つの機能（勤怠管理、呼出制限、位置情報マップ、電話/チャット）を備えたアプリの開発を行い、2022年2月に実施されたWASEDA Demo-Dayにおいて、ソレイジア・ファーム賞、わせたま×SUMS-EDGE賞を受賞した。
- 現在は、「ミカエルウェア」考案で培った知識やチームワークを活かし、スモールビジネス立ち上げに向けて活動中である。

### 〈EDGE-NEXT受講プログラム・活動内容・取組成果・与えた影響等〉

- 2021年8月実施の多摩美連携×医療特化型事業創造プログラムを受講。在学中にこれまで学んできたデザインの知識をビジネス化に活かすことができるか、チャレンジできる機会と考え受講した。早稲田大学、東京理科大学の学生と合同で学ぶことで、チームで事業に取り組む際の議論の進め方、クリエイティブとロジカルの両立の重要性を学ぶことができた。

